



僕大切なもの

朝、家から大切そうに虫籠を抱えて登園してきた年長さんのKくん。僕が「何持ってきたの？」と聞くと、Kくんは「...クモ！」とにっこり。

その日の午前中、廊下にできた人だかりの中心にはKくんがいました。クモの庭を足元に置き、みんなで頭を近づけ大盛り上がり！「触りたい人～！（Kくん）」「はい！！」

「はいー！」と年少さんたち。「じゃあ、ピシッと手をあげているあなた！（Kくん）」と誇らしげ。よく見てみると、クモの庭にはこだわり満載。虫用のゼリーも置かれ、Kくんが愛着を持ってクモに関わっていること、「僕大切なもの！」と言うことが伝わってきます。クモを通して同じ学年以外のお友達とも関係が深まり、その後の遊びへと続いていくように感じました。

元々クラスでは製作遊びが大盛り上がりでした。そんな子どもたちの様子を見て担任の保育者は廃材コーナーを設置。Kくんだけでなく、廃材を使った様々な遊びがクラス内では広がっています。子どもたちの”今”を丁寧に読み解き、寄り添い、環境を整える。そんな保育者な丁寧な関わりがあってこそ、今回の姿につながっているように感じました。

「自然との関わり・生命尊重」 「健康な心と体」 「言葉による伝え合い」 「豊かな感性と表現」

6月年長児保育参観 サンカク会議より抜粋
作成者：福丸直宏